

三河 アララギ

2025年 令和7年10月 神無月
かなづき

十 月 号

第七十二卷 第十号



ニューヨーク日記(228) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

LUNAR ECLIPSE

Blue Shoe Diaries



2025年9月8日 午前1時52分 — 月食。

この日の皆既月食は日本からは見えるけれど、北米では見えないと聞いて、果たして自宅のベランダから見えるのか半信半疑。でも1時半に目覚ましをかけて起きてみたら…満月がくっきり! 完璧な角度で空に浮かんでいました。問題は…そこから眠気に勝って、月が欠けていくのを見届けること。こちらが1時52分にiPhoneで撮った写真。寝ぼけた状態のわりには、悪くないでしょ?

September 8, 2025 — A Lunar Eclipse at 1:52am.

This full lunar eclipse was only visible from this side of the world—not in North America—so I wasn't sure if I'd catch it from my apartment balcony in Japan. But I set an alarm, woke up at 1:30am just in case... and there it was. The moon, glowing and unobstructed, hanging perfectly in view. The real challenge? Staying awake long enough to see the shadow creep in. Here's my iPhone shot at 1:52am. Not bad for a half-asleep photographer!

目次

第七十二卷第十号(通卷八六二号)

表紙・大きなカボチャ	(1)	牧原 規恵	(25)	木 風	(31)	
ニューヨーク日記(228)	Blue Shoe (2)	稲吉 友江	(26)	折々の詩(二十)	ふじのけんじ	(32)
歌集 わが冬葵	御津 磯夫 (4)	鈴木美耶子	(26)	五感を澄ませば(40)	杉浦恵美子	(34)
歌集「草々」	今泉 米子 (5)	大武 智子	(27)	附録(四十)	矢崎 直人	(36)
ははきくさⅢ	大須賀寿恵 (6)	現代学生百人一首		『息継ぎが…大切』	中屋 保之	(38)
三河アララギ歌集Ⅵ	夏目 勝弘 (7)	五十里莉奈	(28)	『酔いの徒然』(162)	丸山酔宵子	(40)
『歌集 八千代』	岡本八千代 (8)	重田 梨亜	(28)	『世界平和大音頭』	高橋 育郎	(42)
『まつしゃん』	今泉 由利 (10)	村口 真菜	(28)	『氷魚』のことから	岡本八千代	(44)
『暑いです』	安藤 和代 (12)	井上 湊祐	(28)	『江上浩二の独り言』	江上 浩二	(46)
赤とんぼ	山口千恵子 (14)	宮下 玲	(29)	初狩便り47	花野みふり	(48)
閉店	杉浦恵美子 (16)	福田 せり	(29)	本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬		
万博	伊藤 忠男 (18)	鈴木 大和	(29)		本田 勇氣	(50)
エムキャンパス	白井 信昭 (20)	田中 真緒	(29)	康鍼治療院	玄 翁	(52)
『本と喫茶 夢中飛行』	矢崎 直人 (22)	植村 公女	(30)	蠅虎	殿山 木風	(54)
『いとよせ』 いーはとぶ		木村 歩歩	(30)	Circles of Time	Atiya Hussain	(56)
	牧原 正枝 (24)	今泉 如雲	(30)	編集室だより	今泉 由利	(58)
	森 厚子 (24)	矢崎 直人	(30)	『三河アララギ』について		(60)
	水野 絹子 (25)	今泉 由利	(31)			

歌集 わが冬葵

御 津 磯 夫

御陣屋ごちんやの旌旗せいぎの竿むしくひの蝕むしひて垂れさがりたるわが部屋の壁

遠近感のにぶりて使ふ木鋏のひとつとところにいくたびも鳴る

錦木の親木ありて實生あり芽の遅速おそはやの二木並べる

一抱へ牡丹の花を剪りてゆくちちははの墓そのめぐりの墓

われの日は今年も霽はれて朝風に青なびきあふ新らしき羊齒

わが歩みわが見る花や草や木や廣しといへど千坪のうち

高くなりましたといふ一包の鹿沼土重くして春の月昇りたり

七色のつばさ匂へる小鳥来てわが窓を打つねむり覺めよと

朦朧もうろうとしたるおもひにあかときの永き薄明にひたりつつるる

崩れゆくもののひびきを我はきく人の音せぬこのあかつきに

歌集「草々」

今 泉 米 子

氣仙沼の藤由子幼し兩手もてわが夏みかん音たてて吸ふ

つやつやのホヤの壽司食ふかたはらに哺乳瓶持ちちて藤由子眠りゆく

氣仙沼の龜山の頂見ゆる部屋藤由子は遊ぶ紙屑籠に

つば廣のフードかむりて抱かれつつ男の子かと聞かるる藤由子

リアス式海岸見放くる龜山に祖父のコートを藤由子きせらる

抱かれて藤由子眠りぬ龜山の見晴臺を早く降らむ

隣合ふ兒らによろこび藤由子ゆく遊覧船につきくるうみねこ

一夜明けて未だなじまぬわが藤由子抱かぬままに別れ來にけり

下草のいまだも萌えずみちのくの雑木の山に榎木つむ見ゆ

幾曲り登り導かれしホテルにて秀衡膳のわらび大盛り

はゝきくさⅢ

大須賀寿恵

くらやみを冷えし空氣の寄せて来て寝てゐるわれの肩をさいなむ
青白く萎えたる足の筋肉をつまみつつ朝のスラックスを穿く
遠く鳴く蛙聞きつつ痛み止めのくすり飲みくだす水は冷たし
母逝きて二十三年の忌の日来ぬスモン病みつつわが存らへて
いく年かわれはスモンを病み続くキノホルム大量飲まされたるか
スリッパの脱げても分らぬスモンの足指の形のでこぼこになりて
庭の草の奇型となるは隣家の畑に撒きし除草剤かも
昨夜まで青々しげりてゐし露草の葉の縮みたりみどりの抜けて
南天にまきつきてゐしびんぼうかつら蔓解け垂るる白く縮みて
となり家の草除る薬にわが庭のむらさきかたばみ黄色になり果つ

三河アララギ歌集VI 我が窓 夏目勝弘

わが窓より手を差しのべて山萩の柔き若葉に触れてみにけり

窓よりの薄日を右の頬に受け目を閉ぢて息を調ふる

目を閉ぢて窓の方を向きてをり雲の動きを感じてゐたり

窓近くを飛びゐる揚羽の羽音など聞かむと耳を止めてゐたり

自づから窓に向かひて坐りをり窓あることは楽しかりけり

窓のなき小さき部屋をしつらへて籠れる者は捕らはれにけり

鉄板を窓に張りて籠れるはやましさ隠す証とぞ見る

向かひゐる窓を横切れる黒きもの悪魔にあらず今年のつばめ

部屋なかに窓ある家を見しことなし常のごとくその他愛なき思ひ

部屋なかに窓ある所を思ひつく覗き窓ある刑務所ならむ

『歌集 八千代』

蒲郡 岡本八千代

竹島にむかへる磯に働きて竹島を見ず一日過ぎたり

竹島のしげれる森の幾ところもみぢの見ゆるこの夕間暮

夜の船の燈火つぎつぎに消え行きて暗くなりたる沖を見てをり

ともしたる燈火赤き浚漂船しゅんせつせんのあたりの海のかがやき光る

海のへの造形展を終へて帰る風早くなりて海のにほひ来

父の墓をまつれる光忠寺へけさも行く近道もなし抜道もなし

石地藏二つならべるところより光忠寺の磚道二つに岐かる

線香のけむりも青し今すぐに時雨降るかと思ふ日の朝

亡き父の手にめぐりゐし日めぐりの七月七日そのままにある

みかげ石の小さきひとつにわが父はなりてしまひぬことしの冬は

空風火水地の梵字読めぬまま朝々われのぬかづきてをり

父が生きてゐたらばわれのノボタンを陽当りへ移せといふかもしれず

父の庭にわれのノボタンも植ゑてありノボタンだけをわれは見てをり

遺したる父の盆栽松ばかり背伸びをしつつ母は水やる

父の木の柁一本この冬を咲きさかりたり花はましるに

「まっしゅん」

東京 今泉 由利

三河湾の波打つところ御津浜にいとこ同士の雅勝君と

従兄同士永遠に続きゆくことを疑はずされどきたりぬ別れ

生命が地球で生きる条件を話しいる間に逝きてしまえり

もう、帰り来たれぬことを知っていました思い出だけを残しをき

死なないと約束したではないですか、どこへ行ってしまったの

医の仁術を開かれた祖父の敷地に従兄従妹として育ちにき

日本にて、絹の道を極めた従兄と日本より一番遠い国へ行ってみた私

会うことも交信もなく過ぎにし日々の長き後東京赤坂に会う

絹を極めた従兄の存在は頼もしくして誇らしくあり

豊かなる心の従兄の存在を見習はむとす私のこれから

地球なるやさしき円みの見ゆるまま日本上空飛行機の窓

思い出を沢山沢山残しゆきあなたは丸い地球になった

「暑いです」

豊川 安藤 和代

日曜はゆるり朝食しているや孫子思えば山鳩の啼く

酷暑中芋づる元気に首もたげ朝あさにして葉の茂りゆく

百歳をお手本にして八十路坂猛暑の中にも向日葵は咲く

吾が歌を読みてくださる人あらば今後作歌のおろそかならず

子の住みし祇園祭りの花火なり今朝吾が部屋に大きく響く

幼な日の海水浴よ竹島よ父母と一緒に夏はいづこへ

母の忌の巡りて五十年の今日あの日と同じ空青く澄む

「暑いです」寝ても起きても挨拶も木々の枝すらそよとも揺れず

吾が思い叶わぬ日には息かけて透明の窓ゴシゴシと拭く

葉月なるホームの庭に秋を呼ぶ祭りの如く蜻蛉群れ飛ぶ

心地よき木立の下に販売車友等揃いて足取り軽し

もう誰れも居まさぬ家よ吾れ植えしカンナの紅が猛暑に映ゆる

在りし日の夫の求めし風鈴が空家の窓に「チロリン」と鳴る

街の灯を閉ざして夜を降る雨に喜ぶ草木を思えばうれし

万緑の山並み見ゆる北の窓今宵すてきな夢など見らん

赤とんぼ

豊川 山口千恵子

爆撃に死にたる兄の命日と思ひつつ墓のまはりの草とる

草取りて清々となる墓に供ふ庭の百日草と千日紅

群れて飛ぶ赤とんぼ数多空き家となりて久しき隣家の庭

返り咲く藤の紫短かかり猛暑続きの今年の夏を

金柑の木に巻きのぼる蔓先に南瓜一つ成りゐて楽し

何処より来たれる一羽か青鷺は微動だにせず青田に佇む

日の温み残れ肌着たたみゐる今日も一日何もなく過ぐ

水枯れし睡蓮の鉢に水そそぐ急きとび出す土蛙数多

飛行雲夕べの空に伸びてゆく秋になりゆく気配の天空

まだ暗き田の中の道歩きつつ結論出ぬことくどくどと思ふ

道の脇に用水ちろちろやさしき音田の面渡りくる風に吹かるる

出穂の稲田渡りくる風に香りのありぬ仄かなかほり

天空に明るく光る星二つと上弦の月見上げ歩みゆく

明けやらぬ田中の道に聞きつつゆく蛙の声と虫の声々

ゆつくりと茜にかはる空見上ぐ今日も暑きか暦は立秋

閉店

蒲郡 杉浦恵美子

何時の間に定休札も外されて無機質シャッター行きつけ喫茶店

カウンターのみの小さな喫茶店突如閉店馴染んで居たのに

さう云へばこの前訪ひしは初夏の頃初物西瓜を出してくれたり

さう云へば体調不良と聞いたつけ到頭畳む決意をしたのか

女主人ひとり切り盛り喫茶店客は我のみ話題は尽きなし

季節毎きっぱり一種の投げ入れと民芸調の茶碗がよかりき

珈琲や時にはお汁粉楽しみしわたしの憩ひがひっそり消えぬ

十年も通ふうちにはお互ひの細かなことども深く知り得ぬ

やめどきを思ひ描けば彼女には秘めし夢どもふくらみたるか

ご主人のふるさと高山暮す夢何時か聞きしか雑談の中

三谷祭誘はれ見物二年前また観たいねが叶はなくなる

シャッターを下した店前通る度立ち寄りできぬはやはり淋しい

悼み方様々あること感じけり小澤征爾の追悼公演

聴かせたい人は居ぬのに大勢が慕ひて聴きをり追悼公演

小澤征爾逝きて後なほ慕ひたる人の多さよ追悼公演

万博

大阪 伊藤 忠 男

夢洲駅降り立ち見れば人の群れ人垣重ね人の束なり

万博の準備万端整えて気づけばすでに子の刻を過ぎ

絶え間なく訪れる人次々と同じ話も過激さを増す

V I P 来る伝令間もなく人の波バツタリ止まり一息を付く

子どもらの輝く瞳に触れるとき話す言葉に熱こもるなり

仕掛け触れ食入る目の色変わりゆく純な心に触れる喜び

「いのち」継ぎ未来に向けて歩み出す新しき世は想像の域

ロボットと共生間近その景色イメージならず現実のこと

大屋根のリングを巡るその心世にあるすべて一つなりけり

大屋根のリングの内と今の外想ひ届かぬ万博の声

戦火にてがれきと化せるガザの町花の種すら皆焼き尽くす

人と花同じ「いのち」を育むも醜き人のなぜか多きや

花よりも始末悪しきは人の旅歴史に刻む殺戮の跡

雷の音に消されし秋の虫静かなる世はいつのことやら

ただ立ちているのみならば地のままも歩めば道ができるものなり

エムキャンパス

豊川 白井 信昭

土留垣単管支柱側溝沿い涼しき朝明^{あさけ}クランプ締める

百日紅^{さるすべり}根元細枝細細に蕾数^{あまた}多つき四方に伸びたり

み社の祭礼餅投げ午後五時本殿の前大勢の人

ひと処高所用車の上^{へやぐどし}厄年三人餅・タオル・菓子いざ投げんとす

子供済み大人の番と群がりてわが足元に幾つも拾う

この夏もアユセンの鮎^{あや}持ちくれし生のと開き今夜のおかず

庭中の豆板通路蔓のびて胡瓜^{きゅうり}の三株黄花のあまた

地境に肥やし無きまま曲がれる実一つ太くして今年の初成り

週末に息子来たりて地境に太きくなりし物わが孫に示す

八月七日海軍工廠爆繋のサイレンの合図われ目禱す

立秋すぎこの夕間暮れ何蟬か東よりは聞こえ来るとも

夜ふけて間近にも聞く鈴虫の頻り鳴く声わがベッドの部屋

待ち遠し夕食に加う初物の胡瓜二人して齒ごたえ味わう

窓越しにジャスミン一つ植え替えてようやく白く一花咲けり

今日もまた猛暑続く日日角口のわが木香薷薇頻り鳴く蟬

「本と喫茶 夢中飛行」 埼玉 矢崎 直人

「娘々」のスタミナラーメン餃子食い汗を流せる夜勤の明けに

後ろから車が来ても駐車場焦らず停める焦らず車

終末期改めて問う問い直す問えない人にいかに問えるか

志半ばに逝ける学びたき人に遺され独り呑む酒

あまねくにあたえる者の「アンパンマン」「大谷翔平」分けられる者

崖をみる頭の中に小説家車谷長吉頭の崖を

逛といふ字が出るか漢字林引いてみながら読んでく小説

逆^{とても}とてもとてもかくても小説に出てくる漢字読みて調べる

秋の田の輝きはじむ東北道ラーメン屋さんをはしごする旅

障がいのある方ひらくおもてなしラーメン^{おわがね}「大金」チャーシュー美味し

童心に誰もがかえる人形の力「バンダイミュージアム」なり

やりたいと思い夢みる棚店主その機が来たか月の夜の夢

棚の名を「ふせんのもり」と名付けたる本棚店主になりたる秋に

「本と喫茶 夢中飛行」に本棚を持ちたる秋の氷川参道

ご自由に誰かがもつていけるもの何かをここに置いてゆけたら

『いっとうよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

大潮の夕暮れどきは泳ぎしに人影のなき「はまぐりの里」

牧原 正 枝

あかあかと飛鳥Ⅱには晚餐か「蒲郡花火」海もはなやか

浜風にザブンザブンを聞きながら上がる花火の今年の色あい

夕暮れ前の波の打ち寄せる浜べ、そして花火鑑賞、昔を思い出しつつ豪華になっていくのを感じるひと夜でした。

園児らに人権擁護の話せば瞳きらきら子らの聴き入る

森 厚 子

園児らのバルーン人形への質問はきまつて好きな色や食べ物

園児よりお礼のお遊戯元気よく孫のひいちゃんつひには前へ

人権擁護教室の出し物のお礼に、園児らが歌って踊ってくれました。ひいちゃんはどんどん前に出て、ついには。

ふと入りし小さな店の板前の葉蘭の蝶は生きたるが如

水野 絹子

店の名も椿々とはいかにも心憎し手技の妙に箸は止まらず

あつナルト能面を見る若者らはしやぎてをりぬ我にも覚えが

観光地を避けて、六席しかない小さな居酒屋に入りました。板さんの手技が素晴らしく見惚れてしまいました。

ラグーナの観覧車にて西を見るこんなに明るきわが街の夜

牧原 規恵

わが夫は辛き体にむち打ちて日々水やりのタンクの往復

潮見坂雄大なるは表浜ただただ見ゆる水平線のみ

わが家から見える三河湾には半島・島などさえぎる物が多いのですがさすが表浜から見る水平線は一直線でした。

二年間着なきブラウス眺めつつ迷ひながらも筆筭に戻す

稲吉友江

来る度に鳴き声盛ん子燕よ今はひっそりローソン入口

年々の異常気象に思案する鉢のペチュニア全部枯れたり

昔人間の私。なかなか物が捨てられず、増えるばかり。なんとかしなきゃいけないと焦る毎日ですが……。

竹島にいとこらと来て青き海未だ見しやらぬ夏の朝曇り

鈴木美耶子

ともどもに七十歳超すいとこらと語らふ遠き日同じ思ひ出

この次はいつとは約束せぬままに帰らん今はそれぞれの街

いとこたちと過ごした幼い日。セピア色の昭和の日々にすっかり浸り、そして将来の事なども話せた夏の一日に。

駅までの道速足に歩みけりひとつ思ひを吹っ切らむとして

大 武 智 子

わが町の銀座通りはシャッター街百日紅がことさらにに美し

終日をエアコン動く部屋にをり焦げる匂ひの戸外を逃れ

転倒して傷めた股関節が、日にち薬でようやく癒えて来ました。駅までの道を速足に歩けるほどに。

現代学生百人一首

東洋大学

数々の「違い」に悩む私たちそれでもいつか分かり合えたら

埼玉県立松山女子高等学校1年 五十里 莉奈

幼き日百円握って通ってた駄菓子屋の戸に「閉店します」

埼玉県立蕨高等学校3年 重田 梨亜

弟の「ねえね、あそぼ」の一言に最後にいいよと言えたのはいつ

芝浦工業大学柏高等学校3年 村口 真菜

電車内マスクしてない人がいる責める気持ちを消せない自分

芝浦工業大学柏中学校1年 井上 湊祐

わがままでめんどくさいほくだけど感謝を込めて風呂を洗うよ

芝浦工業大学柏中学校1年 宮下 玲

せりなずなごぎょうはこべら七草の一番最初は私の名前

昭和学院秀英中学校1年 福田 せり

テレワーク会議をしている母親にご飯まだかと訴え続ける

千葉県立安房拓心高等学校1年 鈴木 大和

角折れた古いノートを見返せば小さな自分よく頑張ったね

千葉県立千葉中学校2年 田中 真緒

『俳句』

植村 公女

麦秋やかくれんぼしてそれつきり
夏空のはじっこらしき我は点
名物の団子買う列日雷

木村 歩

向日葵に不生不滅の青い宇宙^{そら}
遊歩道歩く人なし炎暑かな
蔭求めじぐざぐ歩く残暑かな
がん末期痩せても美味し鰻かな
兄逝きて片蔭の読経骨納め

今泉 如雲

地物なる枝豆がありやそれだけで
焼物は陸前久慈の鮭の鎌
地虫鳴く敗戦前の呉のこと

矢崎 直人

秋の田の黄金の栃木を縦断す
「大金」^{らゐんおがね}のもてなし秋の佐野ラーメン
童心に秋の「バンダイミュージアム」
棚店主の夢を夢みる月の夜
「夢中飛行」本棚店主になれる秋

木風

雨よふれ酷暑多忙のひと休み

青天に霹靂鳴るや友は逝く

月を見て君思う仲であつたとは

庭に雨月が出る頃止むだろう

今泉由利

アララギ・キヤラボクスオウ・ヤマビヤクダン

いまだまだしびれているよ青山椒

木葉木菟このはずく録音テープのブツポーソー

ひとところ風たつらしい蓮裏葉

彫りいだす一刀一刀蓮花弁

突きい出てひたすらの朱曼珠沙華

黒雲も吹き飛ばさるる野分かな

アララギの朱実に宿る朝の露

折々の詩(二十)

ふじのけんじ

彼方からの声

親から遠ざかるように
神を否定していた時代があつた
愛がどうのこうの言つたつて
何もしてくれないじゃないか
一つも人間は変わらないじゃないかと

その時親ともうまくいっていなかった
纏わりつかれるのが嫌だった

俺は俺でしかないんだ

神の愛なんで幻想だと思つていた

親も神も

遠ざけて ひとりで生きていく日々

他の人のことは耳に入らず

世の中に反発して生きてきた

でも 様々な試練を経た時

いろいろな自分が自分から去っていったのに

何かが自分を見続けているのを感じた

ひとりで天井を見ている時に

「お前はひとりじゃない」

という声が聞こえたような気がした

いったいあの声は何だったのか

最初は親とばかり思っていたが

今は 自分を包む何かだったんだと思うようになった

それからは ひとりの時に祈るようになった

絶え間なく 自分を 誰かを見続ける目が

愛なのかということが分かりかけてきた

その目を感じ

その声を聞いて

生きていく覚悟ができた

五感を澄ませば (40)

杉浦恵美子

山川登美子

近代の女流歌人の筆頭と云ったらやはり与謝野晶子でしょう。歌風といい、その生涯といい華やかさや情熱に充ちています。

でも、そういう人の周囲には、お株をとられてしまう人がたくさんいるんじゃないかと思います。

だってひとりでは輝けませんから。盛り立て役が多ければ多いほど目立つのではないでしょうか。

それに彼女は今で言うところの略奪婚。

一方、夫である与謝野鉄幹も女性関係では信じられないほどの乱脈ぶり。晶子の前に二人の女性と結婚していました。しかも二人とも女学校の教え子。

しかし写真を見ると、かなりの男前。おまけに、歌誌『明星』を創刊し、ロマン主義運動の中心的存在であれば、歌人として踏み出したばかりの晶子にとって、憧れ、熱情、求愛の対象であったことは、容易に想像できます。

結婚後は十二人もの子宝に恵まれ、円満に見えますが、

鉄幹はその後は何をしてもぱっとせず、よって家庭はいつも貧乏で、そこは逆に何をしても才覚のある晶子のお蔭で切り抜いていたようです。

知らない間に立場が逆転。

しかし生涯鉄幹を愛し抜いた一貫性というか、さすが明治の女性だなあと 생각합니다。

前置きが長くなりました。

今回は、晶子の陰に隠れた方の歌人について考えてみようと思います。

山川登美子です。

彼女の代表歌

「晶子の君と住の江に遊びて」

それとなく紅き花みな友にゆづりそむきて泣きて忘れ草
つむ

歌集「恋衣」

は意味深です。ふたりは歌の師であった鉄幹をめぐって恋のライバルであったと言われています。しかし晶子と鉄幹が結婚してしまったため、失恋。登美子は親の勧めにより心ならずも別の男性と結婚することに。

実は、何十年も前に、山川登美子について調べていた友人にくっついて福井県小浜市の生家を訪ねたことがあります。今は記念館になっているようですが、当時はま

だご当主（彼女の甥御様の夫人と子息）一家が暮らしていらつしやいました。

厳めしい門構えの武家屋敷。

当時でも、甥御の夫人でさえ彼女については亡夫の思ひ出話から知るのみだったそう。

何しろ夫から感染した結核のため二十九歳で夭逝。

甥御様の思ひ出話も、帰郷して病床にあった時に限られていたと。ちよつと微笑ましかつたのは、病床でつけたノートに食べたいものを列挙。その中であつたのつぺ（汁）と云う語に本人の身近にいるような親しみを感じました。

さて、恋のライバルだったふたり。

ふたりは境遇が対照的。片や深窓の令嬢、片や商家のちやきちやき娘。

しかも歌風も同様に、登美子の方は、「自分の感情を直接表現するのではなく、自分の心を目に見える物に置き換えた後、その置き換えた物に思ひを託し、象徴化して歌う特徴」があるとか。ややこしい。

すると「紅き花みな友にゆづり」はわかるとして「忘れ草つむ」です。

忘れ草とはカンゾウのこと。花言葉の由来は、

・美しい花が一日限りで終つてしまうため
・花が美しくて嫌なことを忘れられるため
・美味しいから嫌なことを忘れられるため
とか。

そう、忘れ草は、初夏に咲く鮮やかなオレンジ色の花なんです。勿忘草（ワスレナグサ）の淡い青色とは全く異なります。

つまり言葉としては「忘れ」でも、花のイメージは「紅き花」に負けていない。

うーん、ほんとに「ゆづ」ってるのかな、「内心では一歩も譲つてない」と思えるのは深読みに過ぎるでしょうか。

モテ男鉄幹はふたりをどう思つていたのでしょうか。ちなみに彼は、登美子を「白百合」、晶子を「白萩」と喩えていたとか。

何だか光源氏みたい。でも源氏だって若い頃は多くの女性と恋愛を重ねたけれど、後半生は懊悩の日々だったではないでしょうか。

白百合と喩へられしを忘れ草と喩へ返せる山川登美子

附 録（四十）

矢 崎 直 人

「夢中飛行」本棚店主になれる秋

「シェア本棚」というものがあります。本棚のオーナーになって、本を貸したり売ったりする、本棚を借りる仕組みです。埼玉県さいたま市、大宮駅から氷川神社の参道に抜ける一ノ宮通り沿いに「本と喫茶 夢中飛行」というシェア本棚のお店があります。

「本と喫茶 夢中飛行」の本棚を持ちたる秋の氷川参道

私はそこで「ふせんのもりの本棚」の本棚店主をはじめました。

読書会の本を読む時、気になった個所に付箋を貼ります。その本をみて「付箋の森みたいです」と言われたことから、本棚名を「ふせんのもり」にしました。その読書会では主に現代小説を読んでいます。最近の芥川賞や芥川賞の候補作になった作品などが多いです。また、俳句が趣味なので、歳時記を置いています。

棚主により並べる本に特徴があつて、飾り付けなど工夫がされています。お店の中の他の人が置いている棚を眺めると本の選び方も並べ方も個性的な棚ばかりで面白いです。店内には四席ほど椅子があつて、そこで借りた本を読みながらコーヒーを飲むことが出来ます。

棚の名を「ふせんのもり」と名付けたる本棚店主になりたる秋に



『息継ぎが…大切』

中 屋 保 之

周囲の勧めもあつて始めた詩吟も早や10年近くになろうとしている。チョットは上達しているだろうか?!

『漢文』が必須科目であつた最後の世代が私たちであろう。今や必須科目であつたかどうかすら記憶が定かではない。かつてNHKのTVで「漢詩紀行」という番組を放映していた。両親が視聴していたのを横で観ていたのを覚えていいる。ゆつたりとした聴き心地の良いナレーションが印象に残っている。

よく、詩吟は母音の芸術とされる。歌のように詩をリズム・メロディに乗せるのではなく、詩文の朗読（素読という）を基本とし、素読の後に特有のメロディ（節調という。〈あ〉〈い〉〈う〉〈え〉〈お〉〈を〉の母音と〈ん〉を使う）を加えることで詩情を表現する。この「詩情」を、母音と音の高低と強弱とで聴者に伝えるのが、詩吟は母音の芸術と云われる所以である。聴き心地の良い吟を習得するのに大切な行程に「腹式呼吸」と「息継ぎ」がある。「腹式呼吸」で発声すると、よく響く声と正確な音位（音程）での吟詠ができる。また、決められた箇所での「息継ぎ」を励行することで、聴く人に息苦しさや過度な圧迫感を与えず、聴き心地の良い吟を提供できると日々の稽古に励んでいるのだが…言うは易しの心境である。

近頃のアップテンポ振りはこの老体には難儀だ。夜十一時から翌朝五時までの「NHKラジオ深夜便」に、めっ

ばう癒される。昼のTV、ラジオで活躍していたベテランアナウンサーたちが、そのスキルの高さを遺憾なく發揮してくれている。なによりもそのゆつたりとした語り口調に加えて、適度な「間」、つまり「息継ぎ」が絶妙なのである。なんとも聴き心地が良い。齢を重ねるにしたがって他人との会話が成り立たなくなる傾向が強くなるのは致し方ないとは言え、一つには「息継ぎ」というのが大切な要素だと思われる。相手に聴いてもらうには「息継ぎ」をし、相手にも「息継ぎ」をしてもらう「間」が在ると無しではその伝わり方に違いがありそうである。「喋りたい」気持ちが強くと出過ぎると聴いている側は疲れるだけで、折角の話しが伝わらない。これはもったいない。文章でも同じであろう。SNSには、そんな疲れる寄稿が散見される。一例を挙げると、

《普通に采配が下手だなと感じましたこのイニング何故横川続投させなかったのか謎です負けてるなら代打は分か
ります3点勝ってたので5回は横川に投げさせるべきでした結局裏目に出ましたね〜確かにケラーのフォア
ボール連発は誤算だと思うのですがケラーもちゃんと準備出来てなかったのではと思いますこれは阿部さんと
コーチ陣の責任だと思います阪神に勝てない理由はそこかな〜と思いました》

やはり疲れる！

「ラジオ深夜便」にも「息継ぎ」が極めて少ないアンカーがいるが、その日は聞かずに寝る。

『酔いの徒然』（二六二） 丸山 酔宵子

『日本の祭り・真夏のクルージング』

8月5日、37度を超す真夏の太陽が照り付ける中、大きなスツーカー3つを抱え、自宅からタクシーで横浜山下埠頭へと向かう。スツーカーには、夫婦2人分の11日間の必要衣服、下着、靴類などが詰め込まれている。

第三京浜から横浜スタジアムを通り山下栈橋に着くと、ドーンと左栈橋にはクルーズ船「飛鳥」が、右側にはこれから乗船する「ダイヤモンド・プリンセス」が両者とも堂々と威容を誇って停泊している。

タクシーから大きなスツーカーを下ろしていると、もうそこにはポーターが待ち構えていて、乗船手続きのデスクまで案内してくれる。

ダイヤモンド・プリンセスは2004年日本国内で建造された最大の客船で、総トン数・115,875トン、全長・290メートル、全幅・37.5メートル、最大乗客数・2,706人、乗組員数・1,100人

将に帝国ホテルが海上に浮かんで、巡航速度22ノット（時速41キロメートル）で優雅に海上を走っている

のである。コロナ禍で一躍有名になったが、今夏、その一連のドラマを描いた小栗旬、松坂桃李主演の映画「フロントライン」が好評ロードショーされている。

10年程前の処女航海の際、北海道一周と樺太を巡るクルーズツアーを初めて経験し、コロナ後の一昨年乗船し、今回が3回目のクルーズである。

いよいよ、タグボートに牽引されながらゆつくりと夕暮れのベイブリッジをくぐり抜け、旅の始まりを告げる汽笛が「ボーツ、ボーツ」と超低音ベースの大音量で汽笛が鳴り響く。

最初の寄港地青森に向かって外洋を進んで一昼夜。8月7日、ねぶた祭りの最終日のクライマックスに合わせ青森港に到着。巨大な灯籠「ねぶた」で彩られ、跳人（はねと）たちの「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声が街中に響いている。夜には青森港栈橋に設けられた特設会場で「ねぶた」が乗せられた船のデモンストラーションと打ち上げ花火が、北国の夏の夜空を鮮やかに染め上げた。

青森「ねぶた」を後にして、深夜には津軽海峡を日本海に進んで、鳥取県の境港へ。水木しげるロードには妖

怪たちのブロンズ像が並び、どこか懐かしくユーモラスな雰囲気漂う。素晴らしい日本庭園と横山大観で有名な「足立美術館」も訪れながら、のんびりとした時間を過ごす。

境港から日本海を北へ一^{ひしまた}跨ぎ、船は将に隣国韓国・釜山。釜山は前回のクルーズでも訪れたので、今回は朝からの激しい豪雨のため、釜山の目抜き通りの最新のファッションの洗練されたショッピングモールでジャラン・ジャラン。そして、モールの中核をなすロットデパート地下の豪華で清潔感溢れる大きなフードコート。そこで食べた回転すしでのウニ、イクラ、中トロなどのネタの良さと美味しさと清潔さとホスピタリティそしてリーズナブルな価格には感動感激。

釜山を出港し、次の寄港地は九州をぐるっと回って「よさこい祭り」の真っ只中の高知。「よさこい祭り」見物前に、先ず行った場所は、偉大な植物学者牧野富太郎の功績を讃える巨大な植物園である。四季折々の草花が咲き誇る癒しの空間。よさこいの熱気とは対照的に、静寂の中での自然の美しさに包まれた時間が流れる。

高知市内に向かうと、街中が踊り子たちの熱気に包まれ、トラックに積まれたスピーカーのウルトラ大音響が

街中に響き渡っている。伝統と現代が融合した「よさこい」は、色とりどりの衣装をまとった老若男女の踊り子たちが、全身で夏を表現している姿に圧倒される。

「よさこい」の激しいリズムが耳に残る中、船は徳島へ。8月12日、阿波踊りの初日に合わせて寄港。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損損」の囃子に乗せて、踊り手たちが街を練り歩く。観客も自然と手拍子を打ち、踊りの輪に加わっていく。

「よさこい」と「阿波踊り」の余韻を残し、船はいよいよ紀伊半島を後にして、一路横浜へと出航である。

船内では最後の航海を楽しむように、メインホールでは飛び切りにノリの良いバンドが入り、盛大な、フェアウェルパーティーである。

毎晩のように通ったメインバーのバーテンダーたちとも今晩でお別れ。いつものウイスキーロックを片手にデッキに出て、潮風を浴びながら、遠く、祭りの囃子が聞こえるような街の明かりを眺めるのである。

潮風に祭りの囃子混じり合ひ

酔宵子

世界平和大音頭

高橋育郎

ソーレ ヤレソレ 世界平和の 鐘が鳴る

戦争なんて まっぴらごめん ヨイシヨ

平和な世界 平和がいいな

おお うれしいな

シャンシャン手拍子 踊ろうよ

ソーレ ヤレソレ ほんに平和は いいもんだ

悲惨な戦争 おろかなことだ ヨイシヨ

戦争の放棄 笑顔の花を

おお 咲かそうよ

シャンシャン手拍子 賑やかに

ソーレ ヤレソレ 世界平和を 祈ろうよ

戦争やめて 歓喜の歌を ヨイシヨ

こぞって歌おう 手拍子合わせ

おお 幸せいっぱい

永遠の世界平和 めでたいな

「氷魚」のことから

岡本八千代

「絹の話」の今泉雅勝氏が亡くなりました。思い出深い、長く三河アララギの方でした。今回は、岡本八千代先生に「絹の話」においていただきました。

今こそ、世界中の人々がコロナ禍のために苦しめられている。その人その人に運命的なものがあるから、どうすることもできない。

私の住む海辺の小さな小さな町にも及んできて、老人は外出禁止の日々が続く。とうとう私もワクチンを注射することになった。まだ注射できる体であったことに感謝する。

さて、今回は、「今甦る茂吉の心とふるさと」（茂吉没後50周年事業実行委員会・短歌研究社）という題名の本の中より基づいて、「医師と、歌人としての茂吉のことを書くことにした。

それは、当時、医者として働き、また文学者としても活躍したということは非常にむづかしいことであった。茂吉のことで、その基調講演（第三回）の時、「医師・歌人としての茂吉」と題して、加賀乙彦（作家・医師・日本芸術院会員）氏が話されたことをまとめてみる。

○茂吉は、28歳で帝大の医学科を卒業した。

○卒業してすぐ巣鴨病院の医師になった。

○当時は、本郷の大学附属病院には精神科が無かった。巣鴨には医局があった。

○茂吉は、東大の副手（助手の前身）と、府立の巢鴨病院の医師として、同時に東大の医師として、二重の生活をした。
○その中で第一歌集「赤光」を書いて歌人として有名、医師としての生活もした。故に「赤光」の中には、精神科医としての生活が随分描かれているのだった。

『自殺せし狂者の棺のうしろより眩暈して行けり道に入り日あかく』（赤光）
などの歌があるのだった。

加賀乙彦氏は「文学の中には、現実の世界とは違ったイマジネーションを膨らますことによって描き出すというような傾向がいつもあると思うのです」また、「だから、医学界において、文学というのはむしろ退けられるもの」とも思っている。そうかもしれないけれど、私は、もう時代はずいぶんちがつてきている。医と文学の両方を実践しつつある医の先生方も多ぜいあると思っている。

医者であり、詩人である。医者であり歌人である。医者であり哲学者であり、とかその両立を着々と成しとげつつある先生方の多いことを。…。

実は私、医者であり、アララギ歌人であった御津磯夫（ペンネーム）先生に師事した。今思うと、歌会の時に、いろいろな事々を何にも知らなくて、よく恥をかいだ。そのたびに皆さんに笑われたり、叱られたりしたが、どうしたものか、泣けてきたことは一度もなかった。むしろ楽しかった。不思議なことだった。

御津先生のことばを思い出した。「歌は常に私たちの眼の前にあること。朝も昼も夕も心を働かせてをれば、歌はいくらでもそこにあるのだ」を。：「なるほどなあ」と私。

「江上浩二の独り言」 94

江 上 浩 二

夏休みの宿題 8月31日に想う

これまで何回かAIについて呟いてきたが、昨日のあるTV番組を観て、納得して、こんなありふれたタイトルになってしまった。本論の人工知能AIについて呟く前に、小さい頃に実際にやった（小学校高学年から中学生の間）もの思い出しながら、新しい発想をする為に、以下に書き出してみた（順不同）。

気温はおかしい？なぜか、本当はもっと暑いはずという疑問があったので。気温は昔学校の校庭の百葉箱で何を毎日計測したか？ 日陰で、隙間から風が入り込む理想的な夏季では、一番低そうな気温を計測しているのだ。日光が当たる土の表面と陰にした所、土の深さをたしか2cm、5cm、15cm位として、家にあった長さが30cm程度の棒状のガラス温度計があったのでそれを利用した。このように記すと、皆さん察しが付いたと思います。

当時約60年前でも屋根に載せた黒く表面が見えるお風呂用温水器があり、黒い黒体で太陽光のエネルギーを吸収させて、その黒体と接する冷水を温水に変えてしまおうというものであった。これを、太陽を直接的に集光させて、安く出来ないかという手作りの模型を作った。薄

く湾曲できるバルサという薄い板が買えるので、その表面にアルミ箔を極力滑らかに凹凸無きように張り、集光する焦点部分へ透明なビニールホース設置し、熱い温水機をつくってみた。

これは小学校の高学年と記憶しているが、水で作る望遠鏡というキットが付録で、おまけどころか、付録が本体みたいな子ども向け雑誌が当時でも販売されていた。どうやってお水から望遠鏡を作るのだろうか。子供ながら、わくわく感をもって雑誌のページをめくると、なーんだ対物レンズを水で作ろうという説明であった。それは透明なプラスチックで出来た丸みを帯びた2枚の凸状の型があり、それを水中に入れて泡が入らないようにくつつけて、水中から取り出すともう表面張力で離れずに使えるのだ。私は、雑誌では厚紙を丸めて筒を作りそれを望遠鏡の鏡筒にして下さいみたいな説明があったが、折角なので、家に転がっていた塩ビのパイプを転用し、しっかりとした望遠鏡とした。

さて番組の終盤になって、M先生（T大の人工頭脳AI研究では著名）が、知能とは予測能力のことで、今のAIは大規模言語処理システム、すなわち言語の世界で、あという言葉に次ぎに来る最適な言語を探して、それがいいならば あい〈愛〉そして う ならば あう〈会う〉というような説明をされた。このような発想は衆知のことで、皆が知っていることの例である。言語

の世界だけでは不十分で、人が実際に体験経験した（いまこれを体験の世界とする）データを加味した方が良いという意見もあるそうだが、所詮人は言語で考えるので、言語処理システムのみに、進めると説明があったので、言語の世界に限定して話を進める。

次は私の持論で今までにない新規なことを創造・発明してゆくプロセスはもはや、言語の世界では、言語1言語2言語3言語4ー言語列ではない、意味のある新しい言語列を生み出すプロセスの存在を示唆し、もはや閃きにとどませてはいけないのである。

その為には、逆に言語1の後に来るべき言語は今までにない言語Xを探すのである。この新プロセスでは大規模言語処理システムと同様な既知である衆知のデータが必要になってくるが、逆に考えると言語1言語7言語8言語9と例えば言語1の次に来るべき言語2と3と比べて関係なさそうな7・8・9を探していかなければならない。

人の脳はたった20Wのエネルギーで稼働する省エネの代表。

もう既に人間の脳、小さな電力で動け、繰り返しステップ数が数十回という（AIサービスとしている各種システムでは数十万回という繰り返しステップ数を膨大な電力を消費して、高速な半導体チップを稼働させてる）でも上手くAIが作動する方法の研究が始まっているよ

うだ。

生まれたての赤ちゃんの視力は弱く、先ず音声が目から入り、脳で受容認知され、記憶として形成されていく。その際に優先して受容される音声は母親の呼びかける言葉を始め、家族であることは間違いない。だんだん視力が良くなり目を動かし周囲を興味深く観察しだす。それと共に先に受容認知していた音声と何か初めて視野で認知された映像が次に記憶されるであろう。それらが音声というラベルで、記憶される映像が紐付きされるであろう。後にそれら音声単独のことばの記憶の発達、単語レベルの数の増大と言葉としての構造化（あえて文法とは言わない）の習得が進むであろう。

篠田国立科学博物館館長談

文字のない喋り言葉だけの文盲状態の世代、例えば縄文・弥生時代の人の方が、生きる為の知恵、覚えておくことが多いので、実際に脳の容量が大きいことが分っている。便利な生活が発展すればするほど、脳が小さくなっていくこと。実際にネアンデルタール人、デニソア人は現ホモサピエンスよりも体や頭骨も大きかった。

最後に付け加えるとなると、大規模言語処理システムのデータである個々の言語に紐づいた映像タグをセツトとすれば、最適、または発明・創造するケースの繰り返し数は、大きく減少させることが期待される。



初狩便り
(47)



花
野
み
ぷ
り



もち米

私たちは、大小十枚の田んぼで稲作をしている。その中の小さい三アールの田んぼで、コガネモチという品種のもち米を作っている。コシヒカリと同時期に田植えをするが、一週間ほど早く収穫適期を迎える。今年もたわわに実り、甘くなつた米を鳥はわかっている。小さな田んぼに雀をはじめ色々な鳥がやってくる。「豊作だー」と大騒ぎでもち米を喰いあらす。少しでも防ごうと、防鳥テープを買ってきた。田んぼの周りに2メートルの棒を八本立て、真ん中に二本、テープの先端を括り付け、ねじねじと振って、きらきら光るように設定していく。数年前に買った「防鳥カイト鷹」も取り付ける。風が吹くと高く舞い上がり、旋回するように動く。少しは効果があつたようだ。

もち米の楽しみは、年末の餅つき、四月の「笑顔の田んぼ みんなの畑」の総会のお赤飯、今年は四年前に植えた栗の木から実が採れたので栗おこわも作る予定。

もち米の収穫が終わると、本命のコシヒカリの稲刈りとなり、会員総出で働かなくてはならない。みんな笑顔で収穫の喜びを分かち合い、文字通り「笑顔の田んぼ」となる。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言

<https://hondachiro.exblog.jp/>

2025年8月27日

花粉を体内に停滞させない

暑さが続く毎日ですが

早朝の風は涼しくホッとします

日差しの角度や日没時間も変わり

まだまだ暑いですが

着実に季節の移り変わりを感じます 今の時期

最近の 本田のひとり言 にも書きましたが

ブタクサ などの雑草系の花粉が多く飛んでいます

症状として 目のかゆみ 充血 目ヤニ

喉のイガイガ 透明の鼻水 痒み くしゃみ

皮膚の問題 などなど

世間では 例のウィルスも流行っていて

一概には・・・ですが

対策として 身体の流れをとどこおらせない

というのも大切です

体内に入ったアレルギー物質を

体外に滞らせることなく排出する というのが

大切になります

ですので 座りっぱなし は絶対に禁忌です

スマホ を同じ姿勢で見ているのも致命的になります

ですので 立ち上がるのは30分に1回

座りながら 目をつぶり 両手を上げ身体をのばす

のは15分に1回やりましょう

身体をいたわる習慣を

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

2025年8月29日

夏バテ

この時期の 蝉の鳴き声は

夏の終わりの蝉時雨という感じです

日中の暑さはまだまだ続きそうですが笑

暑い日が続く

食欲がなくなったり

倦怠感が出たり

寝ても寝ても眠かったり

疲れが取れなかったり

やる気が出なかったり

ため息が出たり

などなど

いわゆる 夏バテ の症状が出やすくなります

少し前に書きましたが

食欲がない時は

無理して食べないでください

食べなきゃ と思わず

内臓を休ませよう という感じにしましょう

甘酒 などを温めてゆっくり飲んで

湯船につかり 深呼吸

スマホから少し離れて

エアコンを使い 睡眠環境を作り

23時とはいわず出来るだけ早く布団に入りましょう

気温が高いと 無理がきいてしまいます

です

ゆっくり ゆっくり

身体を大切に

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

康鍼治療院 (www.yasuhari.com)

玄 翁

「食いしばりの解消」

食いしばりーは 噛み締め状態
顎が力んで 噛みすぎて
歯と歯が当たって ギリギリと
異常な力で接触し
歯が欠けグラつ
首肩凝りて
力んで力が抜けなくなる
噛む働きにゃ 二つあり
一つは 食事をする時に
口と顎でモグモグと
咀嚼し唾でて 消化する
二つは 力を入れる時
顎の力を利用して
噛み締め 筋は力を得る
本来咀嚼と噛み締めで
陰と陽の平衡が

保たれ 安定するが
陽の活動 偏りて
興奮 緊張 強くなりや
陰陽乱れて無意識に
噛み締め 力むなり

現代人の生活で

日中何かに集中したり

長い時間 目を使い

イライラ・ムカムカ 多くなりや

脳は興奮 強くなり

気血は頭部に集まりて

陽の活動 過剰となる

そういう時こそ 咀嚼して

モグモグ 顎動かして

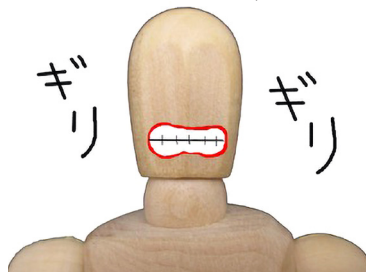
唾液と胃腸を促せば

陰の活動 刺激され

脳の興奮 落ち着いて

食いしばりーは 解消し

力まず楽に生きて行ける



「感情陰陽 波に乗る」

東洋医学の感情は

精の力が源で

心身動かす 陰と陽

生命^{いのち}の波の 原動力

怒喜思悩悲憂恐驚

七つの感情 それぞれに

気の動きが 備わるなり

怒りはイライラ 気が上り

喜び・笑って 気が緩み

思い悩んで 気は止まり

悲しみ寂しさ 気が消散

憂愁 うれいは 気が縮み

恐れや不安は 気が降りる

驚きビックリ 気が乱れる

これらの感情の気によりて
経絡・気血の運行は

影響受けて 動きが生まれ

上昇膨張緊張の陽

下降収縮弛緩の陰

陰と陽の波に乗り

大きな生命^{いのち}の流れを作る

安定している生活の

変化の少ない日常で

読書や動画で泣き笑い

恋愛・結婚の 幸せや

社会の中での葛藤や

親や友との死別など

感情動けば 生命も動く

感情 豊かに反応し

顔や体でしっかりと

表現・行動していけば

生命^{いのち}の陰陽の波に乗り

思った以上に 力湧き

心は徐々に強くなる

感情は生きる力なり



蠅虎ようこ

殿山木風

隣山りんざん變へんじ屋廬おくろの群むれを作なす

自おのずから得えたり如じよ今こん蚊かに見まみゆこと少まれなるを

浴室よくしつに油ゆう油ゆうたらんとして蠅虎ようこに對たいす

忽たちまち思おもう汝なんじの業ぎように勤きん勤きんたる可べしと

蠅虎

令和七年七月

隣山變作屋廬群 自得如今少見蚊
浴室油油對蠅虎 忽思汝業可勤勤

(語釈) 〇 蠅虎…蠅捕蜘蛛。 〇 屋廬…家。 住まい。 〇 如今…いま。 〇 油油…ゆつたりとして落ち着いた様。 〇 勤勤…つとめはげむさま。

(通釈) 隣の山は開発され、住宅が建ち並んだ、自ずと(あれ程多かった)蚊に見えることが今では希になった。浴室にゆつたりとしていたら、蠅捕蜘蛛に出くわした。すかさず思ったのはお前の仕事に邁進せよと。

※裏山が切り取られ住宅が建ち並んだ。お陰でヤブ蚊は家の中に侵入することが希になったが、庭に水を遣り戻ると、すっかり刺されている。それにしても生き物が歳毎に段々少なくなり、見かけなくなったものが多いことに気づく。

丘が開発されて三十年程過ぎて、家内の実家であるこの地に新築成って住んだことになる。大きなガマガエルが春先にもつこり姿を現したのにはびっくりした。妻は昔から居たのよと言う。蛇もいた。しかし気がつけば此れ等を始め見かけないものが多い。カタツムリ、女郎蜘蛛、等等、以前は雀が巢の中で鳴くのか、「チチチ、チチチ」と、その声で目が覚めたものだ。歳のせいか、段々少なくなる生き物に切ないものを覚える。チヨウチヨが舞い来ると、おまえ配偶者は居るのかと思ったり。家に迷い込んだ蟻やコガネムシなど捕まえてはそつと外に出す。蚊、蠅、ゴキブリ以外である。

そんな中、従来居た蠅捕蜘蛛を時折見かける。風呂場に出会わすとお湯で流されないように気を遣う。餌となる蠅や蚊は見かけず生きるのに大変だろうが、見つけたら一匹も逃さず捕食するんだぞ!

目の前に蠅捕蜘蛛の妙技あり

no interest in doing so, and journalists could only rely on the volunteer efforts of the Iraq Body Count website (www.iraqbodycount.org).

It seems even more hopeless after December 2024 to account for the terror and violence unleashed in Syria since the dismantlement of the nation-state shredded the very fabric of a diverse, pluralistic society. The new order is ahistorical, imposed by a Jihadist outfit that is affiliated, through a complex system of acronyms ranging from ISIL, to ISIS, to HTS, all the way back to al-Qaeda.

We know of the destructive passions of the Jihadi elements now in charge of Syria. They were apparent in the extensive damages assessed in early 2017 to Aleppo, a trading hub that over centuries had seen the passage of Hittites, Assyrians, Arabs, Mongols, Mamelukes and Ottomans, and finally HTS.

We know that the continuum of destruction serves a brutal purpose. In early 2015, when reporting on the ISIL-devastated World Heritage Site of Hatra, between the historic Euphrates and Tigris rivers, the head of the UN Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) told us so: “We see clearly how terrorists use the destruction of heritage in their strategy to destabilize and manipulate populations so that they can assure their own domination.”¹

What will happen to our collective humanity as we continue to lose links to civilizational histories such as that of Mesopotamia?

The world’s oldest soap: Aleppo’s traditional soap industry has not been spared.



¹ “Urging international action, UNESCO chief condemns ISIL’s ‘cultural cleansing’ in Iraq”, UN News, Global Perspective Human stories, February 27, 2015. <https://news.un.org/en/story/2015/02/492232>

時の輪廻 再び、9月11日を見つめて

2024年以降、9月11日はこれまでと違って感じられるようになりました。

かつては、澄み切った空と秋の空気が、あの日のニューヨークの悲劇と結びつきにくい記憶でした。

しかし今では、2001年の同時多発テロに続く20年間の「対テロ戦争」によって、世界中で失われた命が約90万人と推定されています。

その中には民間人、軍人、人道支援者、記者も含まれ、直接の民間人死者は約37万5千人に上ります。

戦争の副作用は死者数にとどまらず、医療、教育、文化遺産にも甚大な被害をもたらしました。

シリアでは、国家そのものが解体され、多様性を抱えた社会の織り目が引き裂かれました。

アレppoの歴史ある交易都市も、HTSなどの武装勢力により破壊されました。

テロリズムが文化財の破壊を支配戦略の一部として用いることは、2015年にUNESCOが明言しています。

ヘラテ、メソポタミア、そして世界最古の石けん文化をもつアレppoの伝統産業までもが例外ではありません。

文明の記憶が失われていく中で、私たちの「人間性」はどこへ向かうのでしょうか。

世界最古の石けん——アレppoの伝統的な石けん産業も、破壊を免れなかった。

Circles of Time

Atiya Hussain

September 11, revisited

This year, September 11 feels different.

Until late 2024, my memories of the day planes brought down New York's twin towers were of crisp fall weather, and a brilliant blue sky that I found so difficult to reconcile with Manhattan's unrecognizable cityscape.

Last year's destruction of Syria has added narratives that started with al-Qaeda's attacks.

Nearly 3,000 people are thought to have died on that September day in New York.

By contrast, data for the anti-terrorist response to September 11 is far more difficult to pin down. The response to the terrorist attack on New York unfolded in military action in Afghanistan and Pakistan between October 2001 and August 2021; in Iraq, from March 2003 to August 2021; in Syria from September 2014 to May 2021; and in Yemen between October 2002 to August 2021.

A paper from Brown University's Watson Institute estimates 900,000 deaths directly to the twenty years of war that followed 2001.

That number – 300 times the loss of life in New York – includes U.S. military and opposition fighters, humanitarian workers, journalists and civilians.

Direct civilian deaths estimated around 375,500 are 125 times that of 9/11.

Not featuring in that list is Libya, its socialist leader toppled in 2011, replaced by years of chaos dominated by various armed groups. Nor does the data

include indirect effects of war, such as the impact of active shooting on medical treatment of cancer or malaria for example, or polio immunizations, or even the mind-boggling consideration that entire hospital systems can be destroyed when nation-states are bombed back to the stone age.

It was radical, in the immediate aftermath of 9/11, to count the dead in Iraq when the U.S. military had

20 YEARS OF WAR
AFTER 9/11: 2001-2021



Human Cost of Post-9/11 Wars:
Direct War Deaths in Major War Zones,
Afghanistan & Pakistan (Oct. 2001 – Aug. 2021); Iraq (March 2003 – Aug. 2021); Syria (Sept. 2014 – May 2021); Yemen (Oct. 2002–Aug. 2021) and Other Post-9/11 War Zones¹

Neta C. Crawford and Catherine Lutz²
September 1, 2021

	Afghanistan ^a	Pakistan ^a	Iraq ^a	Syria/ISIS ^a	Yemen ^a	Other ^a	Total
U.S. Military ^a	2,324 ^a	- ^a	4,598 ^a	- ^a	-	130	7,052
U.S. DOD Civilian ^a	6	-	13	-	-	-	21
U.S. Contractor ^a	3,917	90	3,650	10 ^a	2 ^a	\$11 ^b	8,189
National Military and Police ^a	69,093 ^a	9,431 ^a	45,519- 48,719 ^a	80,600 ^a	- ^a	N/A	204,645- 207,845
Other Allied Troops ^a	1,144	-	323	13,407 ^a	-	-	14,874
Civilians	46,319 ^a	24,099 ^a	185,831- 208,964 ^a	95,800 ^a	12,690 ^a	N/A ^a	363,939- 387,072
Opposition Fighters	52,893 ^a	32,838 ^a	34,806- 39,881 ^a	77,000 ^a	99,321 ^a	N/A ^a	296,858- 301,933
Journalists/Media Workers ^a	74	87	282	75	33	120 ^a	600
Humanitarian/NGO Workers ^a	446	105	63	224	46	8 ^a	892
TOTAL	176,206	66,850	275,087- 306,495	266,323	112,092	778	897,150- 928,558
TOTAL (Rounded to Nearest 1,000)	176,000	67,000	275,000- 306,000	266,000	112,000	1,000 ^a	897,000- 929,000

¹Human Cost of Post-9/11 Wars' <https://costsofwar.watson.brown.edu/paper/human-cost-post-911-wars-direct-war-deaths-major-war-zones> (Accessed September 16, 2025)

編集室だより【二〇二五年十月】

今 泉 由 利

歌集「地球にて」

ほんのりと耳朶が温くなってきたガラナの酒というを少々

オリオン星座天井にありほのと今夜寝るなり由野の仕業

絵画館を支える白き大理石に残れるは三億年前の巻貝のこと

日本の景色らしくはないと由野言いて絵画館より眺むる日本

咲き終えし花萼ばかり残りいて百合の木の並木の大き目溜り

百合の樹の枝々通して東京のビル連なれる空が大きい

膾の頃と言いつつ幼らに大根の色人参の色

酢の物のありて成りたつ私の食卓今日より海鼠

数の子と甘栗を入れた袋提げてゆりの樹の並木の道を帰りぬ

何の葉を焚ける煙の中をわれ歩みゆく朝日の方へ

樹々の枝の梢の見ゆる冬の日は上を向きつつわが歩みゆく

鳥の巢の再び見ゆる静けさにしばらく何もしていません

まろまろとまろき雀ら啄めり私の耳朶の冷たき朝を

刈り株にまた藁ののびて枯れて日本の冬駆け巡りゆく

様々な角度に筑波山眺めつつ私の一日の益子への旅

ぼつてりの益子の器の重なるの向うにセリーナの光る白髪

私の手帳のページを埋めてセリーナは帰りにゆけりアルゼンチンへ

南極へも行きにし羽毛のジャケット着て神宮の辺り朝々歩く

滅びゆく草々動物集まれる育種学研究室に夕刻着きたり

ピッピーと国際電話弾み鳴るマッターホルンの麓に居ると

三浦半島の畑の人に声かけて大根いただく土つきしまま

昆布の根を持ちて海牛を突きたりいじめというを思い思いて

気泡のあり硬くして黒き石つ富士山の欠けら拾い上げたり

湧き出づる水のはとりに長く立つ富士山印の水のみなもと

人間の付けたる線の見ゆる富士おりおり雪の舞い上りつつ

百合の果莢枯れ色枯れ立つ富士山の裾野に遊ぶ日の暮るるまで

枯れし実の付き残りたり秋にれの枝々の道よ不忍の池

今朝よりは沈丁花薫る道となる向いゆく風いまだ冷たく

一人居るこのひとときに吹く貝笛思っているより大きな音して

妙の字は山二面に書かれていて妙の字は暮れゆき妙の字は闇

逆光に産毛光りてやさしやさし日本の裸婦に對いクロッキー

パピルスのひと叢立てるところあり何とはなしに心の踊る

肺胞にゆきわたりたる梅の香よ今朝の苛立ち過ぎゆきにけり

無限とも咲き満つる中の二花をスケッチします近くに寄りて

日本の裸婦を描きたる次のページに桜の花のつぼみを描きぬ

花びらは散りてゆきたりたちまちに夢の残れり赤の残れる

はるばると来たりて信濃の堤防の土筆摘みおり少しほけしを

ほんのりと甘さ広がる口の中カタクリの花カタクリの葉よ

昔のことあれこれいつ子供らと共に土筆つみおり入間川堤

くちなしの花咲く鉢に来たる風いまだ夏にはなりきれぬ風

くまん蜂やはり来ておりのだぶじの房長々と咲き満つところ

放射能ありやなしやと小雨降るアルゼンチンなりパレルモ公園

オンブーの実のたわなる時に来つそのオンブーの木の下蔭に

白い花淡いピンクの花落ちているユーカリ香るユーカリ林

実となる時に来たりぬアルゼンチンのオンブーセイボまたハカランダ

今漸く我は氣付きぬ我子等との距離地球の丁度半周なるを

アサードを食みても眠しミラネッサ食みても眠し只管眠し

視野広くなりたる心地しておりぬアルゼンチンより日本思いて

一年をへだてて同じ椅子に来つパレルモ公園の桑の木の辺り

立話している人も行き交う人もアルゼンチン人にて冬の服装

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三

東京都渋谷区恵比寿三・四五・三

フオーレストヒルズ三〇二

ケイタイ 090・8434・8646

TEL 03・6765・5838

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。

三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和七年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行 今泉由利